

第五章 アテナイ国家の成立

司会…今回は第五章を学習します。第

三章・第四章で扱われた氏族制度の発展を踏まえ、それが崩壊し、「国家」という新たな支配装置が形成されるに至ったのかを、古代ギリシャ・アテナイ国家を例に具体的に学習します。

では、広岡さんからレポートをお願いします。

氏族社会の復習

広岡…第五章を学習するに当たっては第二章と第四章で何が語られているか把握しなければチンプンカンプンです。まず復習をしましょう。

第三章のイロクオイ人の氏族の年代は15世紀（日本では戦国時代）です。

要旨をまとめると

- ・氏族―フラトリア（胞族）―部族―種族―種族連合。
- ・原始的な氏族（社会が組織、結束されたもの）の古典的形態。母権に従い、自由人で他の自由を守りあう義務。個人的権利は平等。首長（アルコン）も戦争指揮者も優位を要求しない。
- ・自由、平等、友愛は氏族の根本原理。第四章ギリシャの氏族の年代は紀元前8〜6世紀（日本の弥生時代）で

す。第三章と同様に「氏族―部落―種族」に従っています。

要旨をまとめると

- ・母権は父権に移行するとともに私的所有も夫から子に相続。
- ・氏族内での通婚の禁止、共通の祭祀相互扶助。
- ・戦争、捕虜の奴隸制、父権による血統。
- ・無産階級を搾取する有産階級の権利と支配を永久化。

ここまで学びました。

アテナイ国家とは

◆みんなの学習講座



古代ギリシャ（そういちの著書『一気におかる世界史』より）
前5世紀 ギリシャ人の主な居住地

広岡…第五章は、氏族制度が崩壊して国家が成立する過程をアテナイで説明しています。ポイントとしては、人口増加、分業の発展、私有財産の出現、そして貨幣経済の発展が挙げられます。貴族が貨幣貸付を通じて富を集中させ、貧富の差が拡大した。そして奴隷制が急速に拡大し、社会の生産の中心を担うようになった、という流れです。

氏族制度が限界を迎え、階級社会と国家が形成される過程が中心です。

アテナイ国家を時系列にすると次のようになります。

- ・ テセウスの改革で各種族が自主的に管理していたが一つの中央行政府が設けられた。また異種族でもアテナイ市民の資格、権利を与え外部からの人々を市民として受入れた。氏族に代わり階級（貴族、耕作農民、手工業者）を設定。
- ・ 人口の増加、分業の発達、また私有財産の出現、貴族の貨幣支配による富が集中、貧富の出現と搾取が生まれた。
- ・ 私有財産から生産物の商品の転化をもたらしした。
- ・ 氏族制度は奴隷制の概念は無いが、奴隷の数はいちじるしく増加しておりアテナイ人口より多い。（戦争の捕虜、一般市民が奴隷に転落）
- ・ 商業は多数の外来者をアテナイに引き寄せ、金儲けが容易なので定着した。

ソロン

の革命は債務帳消しで債務による奴隷への転落は無くなりアテナイ市民は自由身分となり奴隷は外部からのみとなった。また土地とその収穫量により4階級に分け階級により発言、投票権、さらに階級ごとに軍隊を組織した。

国民の権利義務は、各自の土地所有の大きさにしたがってはかられ、そして資産による階級が勢力を得た。初期の自分の仲間の市民から搾取する代わりに奴隷やアテナイ外部からの人から搾取する。

- ・ 奴隷による大規模な工芸、手工業、商業が支配的な職業部門。
- ・ 貨幣の富、奴隷、船舶の富は増大、古い貴族勢力から新しい階級「商工業」に代わり、氏族制度は終わりに近づいていた。
- ・ クレイステネスの革命は古い四つの

部族は無視され、たんなる占住地の市民の区分にも基づく100の自治区(デモス)に区分、各々が自治行政を行なった。

・富と商工業の急速な繁栄により「奴隷と自由民、保護居留民と市民」との対立。アテナイの最盛期は「自由市民は約9万人、男女奴隷は36・5万人、保護居留民4・5万人」。富は少数者に蓄積され、自由市民の大半は貧困化し、アテナイ国家は没落した。

・アテナイを没落させたのは暴力の介入ではなく「自由市民の労働を追放した奴隷制」。

以上がアテナイ国家の概要です。

小田切…つまり、これまでの氏族社会では血縁に基づいて社会が維持されていましたが、それではもはや調整できない矛盾が生まれ、国家が必要になったということですね。

国家と警察

功刀…本文では「国家は警察なしに存立できなかった」とありますが、なぜですか。

坂本…国家は階級対立の産物であり、支配階級の利益を守るための暴力装置として成立しました。その暴力装置の中核が警察です。階級対立がある限り、国家は警察を必要とするということです。

司会…「国家は警察なしに存立できなかった」という言葉は、国家の本質が階級支配の暴力的維持にあることを端的に示していますね。

氏族・胞族・部族の違い

古屋(二)…本に「氏族・胞族・部族」と出てくるけど、違いがよくわかりません。

小田切…氏族は血縁共同体。胞族(フラトリア)は氏族の連合体。部族はその上位の政治的共同体ということでは

ないですか。

古屋(広)…グーグルで検索すると次のようになります。

胞族とは、親族人類学において複数の氏族。複数の氏族やリニージ。リニージというのは、複数の氏族が結合した社会組織、親族単位。

特に古代ギリシャのフラトリアです。フラトリアというのは弟のこと。兄弟同士で種族を構成してるものらしいんですけど。フラトリアが代表例で、ポリスの行政、祭祀機能を持つ氏族と部族の中間集団を指しています。外婚制他の部族との結婚のことね。外婚制の単位となることが多いです。

最初是一个の氏族の中で乱婚状態だったのが、胞族になると、胞族外の相手と結婚する制度ができた。そういう家族の発展段階の一つが氏族から胞族と、こういう風になると家族の形態も変わってくると言っていますね。

広岡…なるほど。氏族が最小単位で、

◆みんなの学習講座

<時代年表>

紀元前 13世紀 ミケーネ文明最盛期 ⇒ ギリシャ文明に移行

10世紀 初期鉄器時代

9世紀

8世紀 ギリシャ各地で人口増加、ポリス誕生、第一回オリンピック祭

7世紀

6世紀

5世紀

4世紀

3世紀

【ポリス全盛時代】

スパルタを中心に地中海各地に植民地、ポリスを建設したが
アテネを含め統一国家には至らなかった。

マケドニア戦争により敗退、

以後オスマントルコ ⇒ ローマ帝国の支配下

部族は政治的なまとまりなんだね。
司会…ここで確認しておきたいのは、
氏族と国家の違いです。氏族は血縁共

同体であり、国家は領土と階級に基づ
く支配装置です。

広岡…クレイステネスの改革で、血縁
ではなく居住区（デモス）を基準とす
る制度に変わったことが決定的です。
小田切…つまり、血縁社会から領土国
家への転換ですね。

アテナイ没落と

ソロン・クレイステネス改革

広岡…一番気になるのは、なぜ奴隷制
で没落したのかという点です。奴隷制
は世界中にあったのに、なぜアテナイ
だけだったのでしょうか。奴隷36・5
万人が原因でしょうか。

坂本…工芸・手工業・商業の発展で、
労働の中心が奴隷になった。自由市民
は働かなくなり、社会の担い手が奴隷
に移った。

佐野…現代で言えば、正規と非正規の
逆転に近い構造ですね。

広岡…そうそう。希望しない非正規が

増えていくと、社会の基盤が弱くなる。
それと似ています。

功刀…自由市民が貧困化し、中間層が
消えた。これは国家の弱体化を招く典
型的なパターンです。

城…エンゲルスは「自由市民の労働を
追放した奴隷制が没落を招いた」と言
っていますね。

坂本…重要なのは規模と構造です。ア
テナイでは奴隷が生産の中心になりす
ぎたんです。

功刀…つまり、自由市民が労働から離
れてしまったんですね。

小田切…その結果、中間層が崩壊し、
社会の担い手が弱体化したということ
です。

功刀…アテナイは都市国家で規模が小
さく、奴隷依存が極端だった。

坂本…ローマは奴隷制から封建制へ移
行できたが、アテナイは移行に失敗し
た。

広岡…アテナイの奴隷の多くはマニユ

ファクチュアで労働していたこと、その商工業の発展により少数者の数社への富の集中が行われたこと、これによって自由市民は奴隷と同じ労働をするか、労働を放棄してルンペン化する道しかなかった。

そしてこの自由民がアテナイの多数をなしていた、よって、アテナイの没落は、奴隷依存により自由市民の労働が追放されたことと、社会構造の空洞化により、国家の成立には成功したが、次の発展段階（封建制へ移行）が失敗し、国力の衰退にあいマケドニアによって滅ばされる結果となった。

つまり奴隷の反乱による崩壊ではなく、アテナイの奴隷制による矛盾がアテナイ国家を滅ぼした。このように整理できるのではないかと思うが。

功力・ローマとの違いはそこだ。ローマは次の段階（封建制）へ移行できたが、アテナイはできなかった。

四つの階級

佐野…もう一つ質問します。ソロンの革命で、「ソロンは市民を、その所有地とそこからの収穫によって四つの階級に区分した」とありますが、この四つの階級とは具体的にどういう階級か？ また、この四つの階級と軍事組織との関係はどう説明したらいいですか。

広岡…ソロンが設定した「四つの階級」とは、市民を土地収穫量（＝財産）によって区分した「財産資格階級」であり、この階級区分がそのまま、軍事組織の編成と兵役義務の内容を決定する仕組みになっていました。

古屋（広）…代表的なポリスであるアテネでは、紀元前7世紀には土地からあがる大麦・小麦・ブドウ酒・オリブ油などの収穫量によって、市民は四つの等級に分かれていた。第1級は年に穀物500メデイムノス（※）を出す土地を持つもので、「500メデイ

ムノス級」と言われた。第2級は、500～300メデイムノスの土地を所有し、馬を養い戦争には騎馬で参加するので「騎士級」と言われた。第3級は300～200メデイムノスの土地を持ち、「農民級」と言われた。第4級は200メデイムノス以下の小農や手工業者で、「労働者級」と言われた。アルコン（執政官）になれるのは上位2級でこれが貴族、第3級・4級が平民ということになる。

財産が多いほど、高価な兵種（騎兵・重装歩兵）を担う義務があり、同時に政治的権利も大きい。

つまり、この制度は、階級対立を抑えつつ、市民全体を軍事組織に組み込むための仕組みだった。

（※）メデイムノスとは、古代ギリシヤで使われた穀物などの容量の単位。

現代社会との比較

佐野…先ほど話のあった現代日本の

◆みんなの学習講座



ソロンは、財産政治＝参政権が経済力に依存、債務奴隷の禁止＝負債の帳消しを行う。これをソロンの改革という。

非正規労働の増加は、アテナイの自由市民の貧困化と構造が似ています。
広岡…正規⇨自由民、非正規⇨奴隷、とまではいわないが、社会の担い手が変わると国家は不安定になります。
坂本…中間層の消滅はどの時代でも危険

陰信号ですね。

広岡…この問題は現代とも無関係ではない。例えば非正規労働の問題です。

小田切…確かに、正規と非正規の格差は、自由市民と奴隷の関係に似ているところがあります。

坂本…中間層が崩れると社会が不安定になる、という点は似ていますね。

古屋（広）…エンゲルスが言う「粉飾された奴隷制」とは、まさに現代の賃労働を指しているとも読めます。

国家成立の本質

司会…最終的に確認しておきたいのは、国家とは何かという問題です。レポートにまとめてもらいます。

広岡…生産力の発展⇨私有財産の成立⇨貧富の差の拡大⇨階級対立の激化⇨それを調整する装置として国家が成立します。つまり国家は自然にできたものではなく、階級社会の産物ということでですね。

まとめるとこういうことになります。

- ・氏族制度の崩壊は、私有財産と階級の成立によって引き起こされた。

- ・国家は、階級対立を調整・維持するための装置として成立した。

- ・アテナイの没落は、奴隷制そのものではなく、奴隷依存による社会構造の空洞化と移行の失敗にあった。

- ・現代社会においても、格差拡大や中間層の崩壊は同様の問題をほらむ。

- ・とりわけ、社会の担い手が失われたとき、国家は内部から崩れる、という点は、古代にとどまらず現代にも通じる重要な教訓として確認されたと思います。

司会…ありがとうございました。

次回「ローマの氏族と国家」では、同じく氏族制度から国家への移行を扱いますが、アテナイとの違いが重要になります。ローマ国家の発展と矛盾を通して、国家と階級社会の本質をさらに深く考えていきます。